

# 障がい児のきょうだいの悩みと支援方法

田中美妃 森莉々香 (岡山県立大学 保健福祉学部子ども学科 2年生)

## 研究の背景・目的

日本のきょうだい児はおよそ666万人前後  
○障がい児支援は本人や親に焦点が当てられがちという現状があるが、**障がい児のきょうだい**にも支援が必要であると考えた。

- ・先行研究からきょうだいの悩みや障がい児が兄弟である影響(調査1)
  - ・支援学校に通う障がい児・者のきょうだいへのアンケート(調査2)
  - ・「岡山きょうだい会」の方々へのアンケート(調査3)
- きょうだいの支援方法について考察することを目的とする。

## 調査1 方法

きょうだいの悩みや与えられる影響についてまとめられた先行研究を読み共通点を見いだす。

検索キーワードは「障がい児」「きょうだい」「悩み」である。

## 調査1 結果

- ・きょうだいは、障がい児に対して責任を担う  
→早い段階から自分の将来に見通しを持つ  
→精神的な成熟が促される
- ・忍耐強さが養われたり、他者への共感・優しさを身に付けたりできる  
=障がい児の存在によって、きょうだいは**内面的な成長により影響**
- ・障がい児・者の世話や家事を担うことできょうだいは自分の時間を割く  
→憤りや不満の感情の芽生え
- ・きょうだい自身の家庭外での経験時間が少ない  
→社会性や情緒の発達にも影響を及ぼす
- ・「差別を受ける不安」を感じやすい

## 調査2 方法

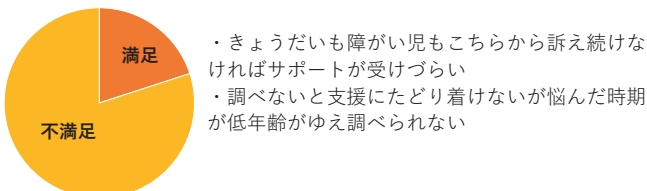
<対象>支援学校に通う障がい児・者のきょうだい10名  
(10代:9名、20代:1名)

なお、アンケート項目は当事者間の内容計11項目作成したうち

- ①障がいのあるきょうだいがいることでよかったと感じたこと
  - ②障がいのあるきょうだいがいることでつらいと感じたこと
  - ③今の日本のきょうだいへの支援策に満足しているか
  - ④悩みを抱えているときにあったと思う支援制度
- 上記の4項目に絞って結果をまとめる。

## 調査2 結果

- ①障がいのあるきょうだいがいることでよかったと感じたこと  
→10人中**8人**が「ある」と回答  
・障害についての理解が得られる  
・テーマパークでの待ち時間を短縮できるサービスがある  
・かわいい、癒される など
- ②障がいのあるきょうだいがいることでつらいと感じたこと  
→10人中**9人**が「ある」と回答  
・親がきょうだいに付きっきりでさみしい  
・自分の行動が制限される  
・きょうだいの話を友達にできない など
- ③今の日本のきょうだいへの支援策に満足しているか  
→10人中**8人**が「不満」と回答



④悩みを抱えているときにあったと思う支援制度

- 10人中**7人**が「ある」と回答した
- ・同世代の集まりが欲しい
  - ・気軽に相談できるフリーダイヤルなどの設置
  - ・話を聞いてほしい など

## 調査3 方法

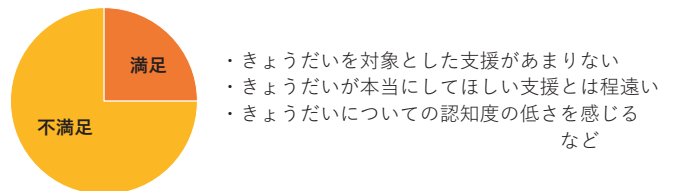
<対象>「岡山きょうだい会」の方々4名

(30代:1名、50代:1名、60代以上:2名)

なお、アンケート項目は調査2の①~④に「岡山きょうだい会での活動を通してよかったこと」を加えた5項目に絞って結果をまとめる。

## 調査3 結果

- ①障がいのあるきょうだいがいることでよかったと感じたこと  
→**全員**が「ある」と回答した  
・進路選択の決め手となった  
・幼い頃から多様性を学べ、思いやりの気持ちを持てる など
- ②障がいのあるきょうだいがいることでつらいと感じたこと  
→**全員**が「ある」と回答した  
・友達と兄弟の話が合わない  
・親との関係性がつかめない  
・自分だけで抱えないといけない など
- ③今の日本のきょうだいへの支援策に満足しているか  
→4人中**3人**が「不満」と回答した



④悩みを抱えているときにあったと思う支援制度

- 全員**が「ある」と回答した
- ・きょうだいの自己理解を促す書籍や家族依存にならないようにするためのもの
  - ・悩みを聞いてもらえる場所
  - ・当事者同士をつなげる制度 など

⑤岡山きょうだい会での活動を通してよかったこと

- 全員**が「ある」と回答した
- ・年齢が比較的近いきょうだいと出会えた
  - ・いろいろな立場の人と関わりを持てた など

## まとめ・考察

調査3の結果から、「障がいのあるきょうだいがいることでよかったと感じたこと」において人生の豊かさにつながる回答が多かったが、回答者に10代が多く占める調査2ではあまり見られなかった。  
→年齢を重ねるごとに**人格形成**に関わる深い学びが多くなった、または岡山きょうだい会での活動を通して同じ境遇のきょうだいと悩みを共有したり気持ちを共感したりすることで、よりきょうだいがいることを**プラスに捉えられる**ようになったと考えられる。

一方で、「障がいのあるきょうだいがいることでつらいと感じたこと」においては、調査2・3の回答に違いが見られなかった。  
→きょうだいに関するつらい経験は幼少期に多いが、大人になるにつれてきょうだいとの**関わり方や関係性が良くなり**、つらいと感じることが少なくなったと考えられる。

調査2で今の日本のきょうだいへの支援策に不満の回答が多かったため、「岡山きょうだい会」のようなきょうだいの集まりの場が身近にあることを広めていく必要があると感じる。以上のことから、「**気持ち共有できる場**」を幼少期のうちから認知してもらうために情報提供を行うことが、きょうだいの支援につながるのではないかと考える。